

小金井市民オーケストラ

第43回ファミリーコンサート

FAMILY CONCERT

Koganei
Civic
Orchestra

モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」序曲
Wolfgang Amadeus Mozart / Overture "Le Nozze di Figaro"

ハイドン：交響曲第99番 変ホ長調
Franz Joseph Haydn / Symphony No.99 in E-flat major

メンデルスゾーン：交響曲第3番 イ短調 作品56「スコットランド」
Jakob Ludwig Felix Mendelssohn / Symphony No.3 in A minor "Scottish"

指揮：佐藤宏充

2026年5月30日(土)
17:30開場／18:00開演

小金井 宮地楽器ホール
(小金井市民交流センター)
大ホール
JR中央線 武蔵小金井駅南口正面

入場無料

連絡先：<https://koganeiorchestra.jimdofree.com/>

主催：NPO法人小金井市文化協会
後援：小金井市・小金井市教育委員会
小金井市観光まちおこし協会
協賛：小金井さくらロータリークラブ



第14回 小金井市民文化祭「芸術文化フェスティバル2026」参加

指揮 佐藤宏充 *Hiromitsu Sato*



北海道教育大学札幌校音楽科および東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮法を佐藤功太郎、ハンス＝マルティン・シュナイットの両氏に師事。東京芸術大学定期オペラ公演や足利オペラ・リリカなど様々な団体で、モーツァルト、ヴェルディ、プッチーニの主要作品やベルカント・オペラ、「カルメン」「こうもり」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」「ヘンゼルトグレーテル」や、初演作品を含めた日本語オペラの演奏にも意欲的に取り組んでいる。また日生劇場、東京室内歌劇場、あいちトリエンナーレ、神奈川県民ホール、びわ湖ホールなどの多くのオペラ公演に音楽スタッフとして参加。「モーツァルト・ミサ曲全曲演奏会」の指揮をはじめ、レクイエム、メサイア、スターバト・マーテルなどの合唱作品の演奏にも定評がある。現在、東京藝術大学音楽学部及び大学院オペラ専攻非常勤講師、聖徳大学音楽学部講師、尚美学園大学講師、洗足学園音楽大学講師などを務めている。

“フィガロの結婚”の初演は1786年5月1日。パリの民衆がバスチーユ監獄を襲撃する3年前のことだ。原作はフランスの劇作家ボーマルシェの戯曲であるが、当時の支配階級の貴族を痛烈に批判した内容であったために上演禁止処分となった。モーツァルトと台本作家のダ・ポンテは、貴族批判の社会風刺を穏当に修正したことで、無事上演許可を得ることができたが、ハプスブルク帝国の都ウィーンの貴族たちが快く思うはずがなく、期待したほどの成功は得られなかった。一方プラハの人々は違った。貴族も含めハプスブルク帝国への反体制、郷土愛も強かった。有り余る才能を自由に発揮できる場所を求めたモーツァルトの音楽に熱狂したのは、抑圧からの解放と自由を熱望した人々だったのだろう。モーツァルトは登場人物の心の動きを巧みに音で表現し、生命感に満ちた音楽が見事に物語を演出している。序曲も短いながらこの歌劇全体の内容と精神が申し分なく集約され、今日まで多くの聴衆に親しまれる曲となっている。

“交響曲99番”は、ハイドンが人生2度目のロンドン旅行へ出発する前の1793年にウィーンで作曲されている。この旅行の際に、君主であるエステルハージ侯は61歳の老人が長旅の危険に身をさらすべきではないという考えから反対をしていた。ハイドンは侯の気遣いを理解しながらもこの旅行を強く希望していた。1度目の旅行で大儲けしたこともあっただろうが、自分の音楽を称賛し喜んでくれた大聴衆にまた応えたいという思いもあったのだろう。最終的には、ハイドンにとって利益になることを知った侯は、自分の考えをすててロンドン行きに許可をあたえた。フランス革命による混乱で、ハイドンをロンドンへ招いた興行主であるザロモンのコンサートが中止になるという危機はあったものの、イギリスの音楽家たちの大同団結による演奏会が開催され、この時期に作曲された6曲の交響曲(99番～104番)のコンサートも大成功を収めている。これら交響曲は、後のベートーベンの交響曲にも影響がみられ、99番も変ホ長調の後にト長調という全く別系統の調性であったり、ソナタ形式の楽曲に追悼のための緩徐楽章をおくなど当時としては珍しい趣向が楽しめる作品である。

「すべてが壊れ、崩れかかり、明るい空が光っている。今日この古い礼拝堂で私はスコットランド交響曲の始まりを見つけた気がする」1829年7月30日、メンデルスゾーンはヨーロッパ各地を巡る一人旅の中で訪れたホリールード宮殿で、後に“交響曲第3番「スコットランド」”の冒頭のテーマとなる16小節をスケッチした。この宮殿は、メアリー・ステュアート(1542～1587)というスコットランド女王にゆかりのある場所であるが、彼女の人生は壮絶なものであった。生後6日で王位を継承し、5歳でフランス皇太子と婚約。家族や結婚相手の死を経てすぐに再婚するものの、別の男性へ恋心を持ちその愛を捨てることができず夫を暗殺、のちにイングランドにて処刑されたという、あまりにも悲劇的で波乱万丈な人生である。本作品では、全楽章が続けて演奏され4つの楽章が1つの大きな楽章、いわば音楽的な絵画を構成している。スコットランドの霧がかかった雰囲気や、ホリールード宮殿の物語が一続きの絵として見事に表現されている作品である。

管弦楽：小金井市民オーケストラ Koganei Civic Orchestra

1982年(昭和57年)、元東京フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者の故・椎野謙一郎氏を中心に、小金井市内在住・在勤の音楽愛好家により創設。現団長は元読売日本交響楽団ファゴット奏者の越康寿氏。毎週日曜日、栗山公園健康運動センター(東小金井)を拠点に活動。小金井市民交流センター(宮地楽器ホール)のこけら落とし公演となった「小金井文化協会創立20周年記念演奏会」、「3.11東日本大震災メモリアルコンサート」、小金井市民による「第九特別演奏会」など、記念となる数々の演奏会で好評を博してきた。

■団員募集

小金井市民オーケストラでは複数のパートで団員を募集中です。

ご関心のある方は見学を受け付けておりますので、

HPよりお問い合わせください！

<https://koganeiorchestra.jimdofree.com/>

